

日本環境共生学会 × 環境省・(独)環境再生保全機構「環境研究総合推進費」

公開シンポジウム

# 都市と 気候変動

参加費  
無料

近年、気温の上昇や大雨の頻度の増加がわが国でも進行しており、温室効果ガスの増加による気候変動によって更に激甚化することが懸念されています。また、東京をはじめ、都市の多くは河川や埋め立て地の近くに発達しており、気候変動の進行に対する脆弱性の増大が危惧されます。

本シンポジウムでは、気候変動の都市への影響や適応策（特にカーボンニュートラルでレジリエントな都市の実現）に関する講演やパネルディスカッションを通じて、参加者の皆様と共に更に理解を深めたいと考えております。

令和  
4年 **9.24** ◎事前申し込みが必要です。  
◎土 13:20-17:00

※日本環境共生学会学術大会の参加登録がない場合でも参加可能です。

ZOOMウェビナーによる **オンライン開催**

●会期終了後、YouTubeにてオンデマンド配信予定●

# Program

参加費  
無料

13:20-13:40	[開会挨拶] 歓迎の辞 主催者挨拶	学術大会 実行委員長 後藤 尚弘(東洋大学 教授) 日本環境共生学会長 福田 敦(日本大学 教授) 環境再生保全機構 理事 田中 良典
13:40-14:20	[基調講演] 気候変動にレジリエントな都市 三村 信男(茨城大学 地球・地域環境共創機構 特命教授) [環境研究総合推進費S-18]	
14:20-14:30	休憩	
14:30-14:55	[講演 1] 沿岸都市域の浸水影響評価と適応策 横木 裕宗(茨城大学 大学院理工学研究科 都市システム工学領域 教授) [環境研究総合推進費S-18-3]	
14:55-15:20	[講演 2] 地域のQoLとその基盤となるインフラ・地域産業への気候変動影響と適応策 栗栖 聖(東京大学 大学院工学系研究科 都市工学専攻 准教授) [環境研究総合推進費S-18-4]	
15:20-15:45	[講演 3] 環境中に放流された排水由来 GHGs 排出メカニズムの解明と排出量算定方法の検討 山崎 宏史(東洋大学 理工学部 都市環境デザイン学科 教授) [環境研究総合推進費2-1902]	
15:45-16:00	休憩	
16:00-16:55	[パネルディスカッション] 都市と気候変動の課題にどう取り組むか コーディネーター 花木 啓祐(東洋大学 情報連携学部 教授) パネリスト 林 良嗣(中部大学 持続発展・スマートシティ国際研究センター 卓越教授、日本環境共生学会 元会長) 中根 英昭(環境再生保全機構 環境研究総合推進費プログラムオフィサー、日本環境共生学会 前会長) 三村 信男(茨城大学 地球・地域環境共創機構 特命教授) 横木 裕宗(茨城大学 大学院理工学研究科 都市システム工学領域 教授) 栗栖 聖(東京大学 大学院工学系研究科 都市工学専攻 准教授) 山崎 宏史(東洋大学 理工学部 都市環境デザイン学科 教授)	
16:55-17:00	[閉会挨拶] 学術大会 実行委員 荒巻 俊也(東洋大学 教授)	

## Profile

### 三村 信男

Nobuo Mimura

茨城大学 地球・地域環境共創機構  
特命教授

1979年東京大学大学院都市工学専攻博士課程修了。専門は地球環境工学、海岸工学。IPCCの主執筆者や環境省、国交省、文科省などの委員を務めてきた。現在、環境研究総合推進費S-18のプロジェクトリーダー。

### 横木 裕宗

Hiro-mune Yokoki

茨城大学 大学院理工学研究科都市システム工学領域  
教授

1991年東京大学大学院工学系研究科土木工学専攻修士課程修了。1996年博士(工学)(東京大学)。沿岸域における海面上昇に対する影響評価と適応策・効果の経済評価を行っている。専門は海岸工学。

### 栗栖 聖

Kiyo Kurisu

東京大学 大学院工学系研究科都市工学専攻  
准教授

2000年東京大学都市工学専攻博士課程修了。気候変動緩和に向けた人々の環境配慮行動および持続可能な消費の推進、近年では気候変動適応に向けた地域の脆弱性評価に関わる研究を進めてきている。専門は環境工学。

### 山崎 宏史

Hiroshi Yamazaki

東洋大学 理工学部都市環境デザイン学科  
教授

2008年東北大学大学院工学研究科土木工学専攻博士課程後期修了。生活排水処理施設から直接的・間接的に排出される温室効果ガスについて、解析を行ってきた。専門は水環境工学。現在、浄化槽審査委員会委員等。

### 花木 啓祐

Keisuke Hanaki

東洋大学 情報連携学部  
教授

1980年東京大学・工学系・都市工学・博士課程修了。80年代終盤より気候変動問題に関わり、IPCC第2次報告書のLAを務めた。排水処理と農地からのN<sub>2</sub>O生成の実験研究、都市活動由来のCO<sub>2</sub>削減のシステム研究を実施。

### 林 良嗣

Yoshitsugu Hayashi

中部大学 持続発展・スマートシティ国際研究センター  
卓越教授  
名古屋大学名誉教授

モビリティの気候変動への影響、計画のQOL評価を研究。著書に「レジリエンスと地域創生」、「交通・都市計画のQOL主流化」、「Intercity Transport and Climate Change」等。

### 中根 英昭

Hideaki Nakane

環境再生保全機構 環境研究総合推進費  
プログラムオフィサー (PO)  
高知工科大学名誉教授

1981年東京大学大学院理学系研究科博士課程修了。国立環境研究所及び高知工科大学にて、大気汚染、オゾン層、温室効果ガスに関する研究、深層学習による河川水位推定等の研究を実施。現在、中央環境審議会臨時委員等。

## 参加申し込み

Webサイト(申込フォーム)よりお申込みください。

<https://p-unique.co.jp/jahes-sympo/>

●締め切り：9月20日(火) ただし、定員(400名)に達し次第、締め切ります。



公開シンポジウム事務局(株式会社プロセスユニーク内) TEL: ☎ 0120-890-180 Email: koukaisympo@p-unique.co.jp